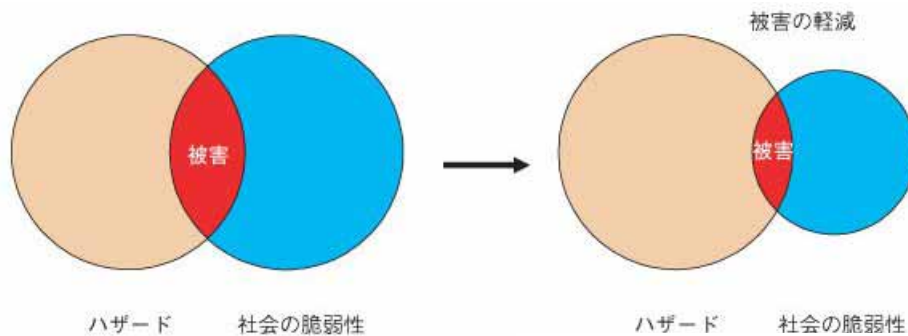


リスクの整理について（試案）

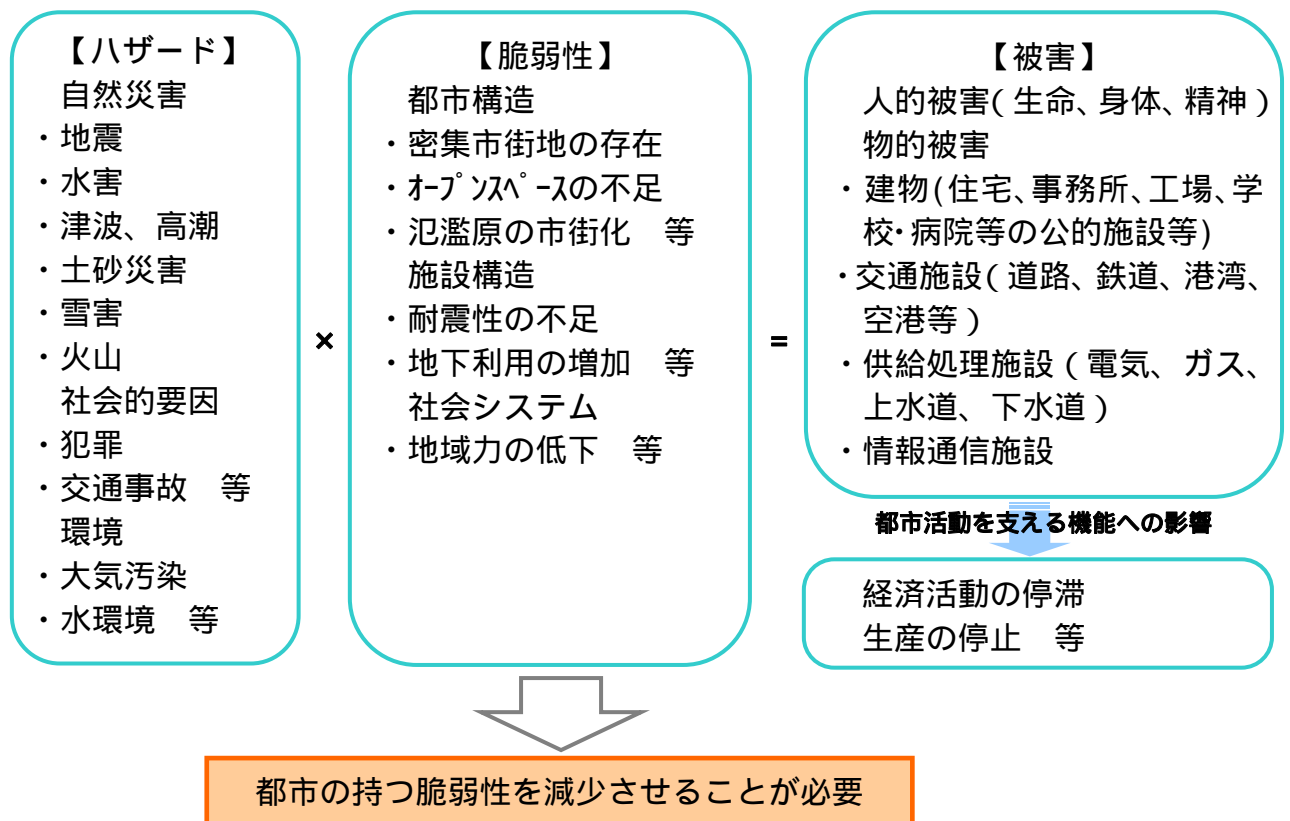
都市において、人々が生活し、様々な都市活動が行われているが、様々なリスクが存在する。

リスクには、直接的な被害として、人的被害、物的被害があり、その原因として、自然災害、社会的要因、環境が挙げられる。また、都市活動を支える機能を有する施設の物的被害は、経済活動の停滞、生産の停止等の間接的な被害へと波及すると考えられる。

都市におけるリスク（被害）は、原因となる外力（ハザード）と社会の弱さ（脆弱性）との関係で「被害 = ハザード × 脆弱性」と表現することができ、安全で安心して暮らせるまちづくりの実現のためには、都市の持つ災害等に対する脆弱性を減少させることが必要である。



（資料）「平成 17 年度防災白書」（内閣府）



一方、防災のサイクルは、

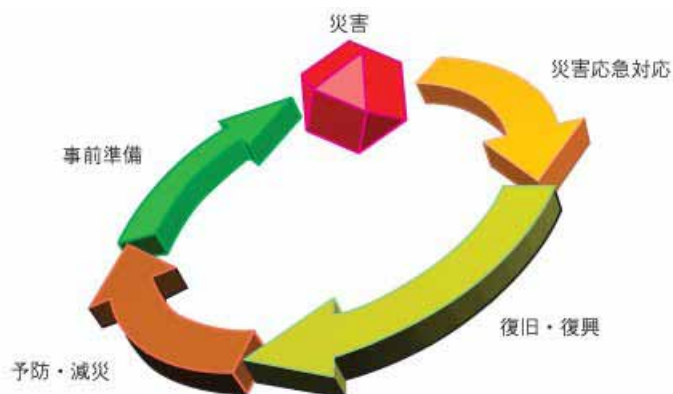
予防・減災（事前の防災施設の整備、耐震化など）

事前準備（防災訓練の実施、ハザードマップの提供など）

災害応急対応（災害直後の救急、救援など）

復旧・復興

の4つの段階から構成され、都市の脆弱性を減少させるためには、これらの防災のサイクルの各段階において、適切な対処を行うことが重要である。



（資料）「平成17年度防災白書」（内閣府）

今回の安全で安心して暮らせるまちづくりの推進方策の検討においては、都市(周辺の農地・自然等を含む)をどのように形成し、つくり変え、使っていくかという観点から、上記のサイクルに関する考え方を踏まえつつ、各種ハザードに対する都市の脆弱性を減少させる方策について検討する。